

クリーン&命

川口基督教会牧師 司祭 ステパノ 柳 時京

十数年前、私は日本の男性俳優のインタビュー記事を読んで、大変感銘を受けたことを覚えていますが。この俳優は(名前は記憶していません)、どこか外出先でトイレを使ったら、必ずキレイに後片付けとお掃除をすと言いました。その理由は、自分の次に使う誰かが気持ちよく利用できるよということでした。その彼はある日、用のために入ったトイレで眉をひそめたことがあり、その時からこのことを実行に移したそうです。彼はちょっとしたお掃除のため、いつもティッシュペーパーなどを持っているそうで、本当に偉いと感心しました。そして彼は、そのような小さな心配りが広がれば、みんなでキレイに使うようになるという望みを抱いています。きちんと管理されているところならともかく、公衆トイレなど、施設によっては必ずしもそうではないところもあります。そういうところこそ、利用者がお互いに少し努力するだけで良いのではないかと言ったのです。

私は、彼の気持ちに大いに同感して、それから自分も同じように取り組もうと決めました。トイレだけでなく、公園のベンチやカフェのテーブルなど、不特定多数の人が一緒に使うモノに対しては、いわゆる共同利用施設=パブリック資産・みんなのモノであることを意識しながら、クリーンな状態を維持するようこころがけています。ただ、自分は潔癖主義者ではありません。あまりにも「キレイ」を強調しすぎると、誤解される恐れがあります。それより、自分は、モノというのは、使い方によっては長らく故障せず使うことができるので、「クリーン」を保つことは、結果的にはモノの節約にも繋がるし、また多くの人の益になるので、自分なりに「クリーン・プロジェクト」と名付けています。

少し視点を変えて、地球規模のクリーンの話になると、クリーンは人間社会の運命や命とも関係します。私たちは、〈今の人々の活動が遠未来に深刻な影響をおよぼす〉ことを知っていて、公害や放射能問題など過去のいくつかの実例をも知っています。今の地球を使う次の世代のためクリーンを保つように努力することは、〈遠未来の隣人を犠牲にして手に入れた繁栄〉への反省でもあります。「被造物の本来の姿を守り、地球の生命を維持・再生するために努力すること」という世界の聖公会(アングリカンコミュニオン)の5宣教の指標、国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)に照らして見たとき、〈近未来の夢のために遠未来を犠牲にすることは出来ない〉という、宣教や文明史的な観点から、トイレの手入れも大事ですが、さらにより根本的なクリーンを考えるべきではないかと思います。

* 〈 〉内の言葉は、東京教区信徒で東京大学や早稲田大学で研究された戸川達男著「遠未来の人々との絆」より引用。

